③　米の流通の状況

令和８年９月末民間在庫量のポイント

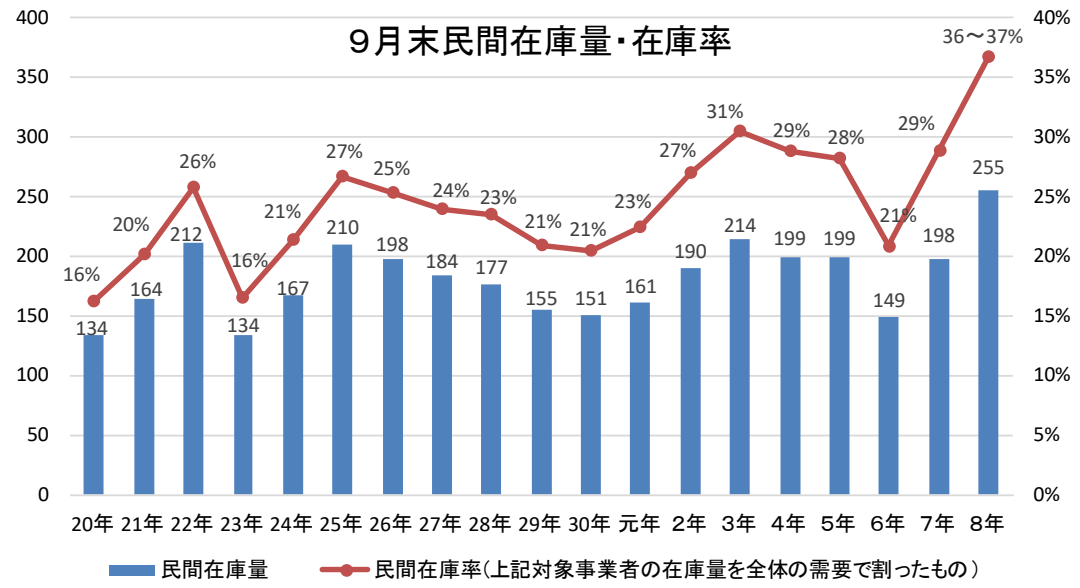
○　令和８年９月末の民間在庫量は対前年同月＋58万玄米トンの255万玄米トンと、最も高い在庫水準。
○　段階別にみると、出荷段階は206万玄米トン、販売段階は50万玄米トンとなった。

○ 出荷・販売段階別の民間在庫量（うるち米）

（万玄米トン）

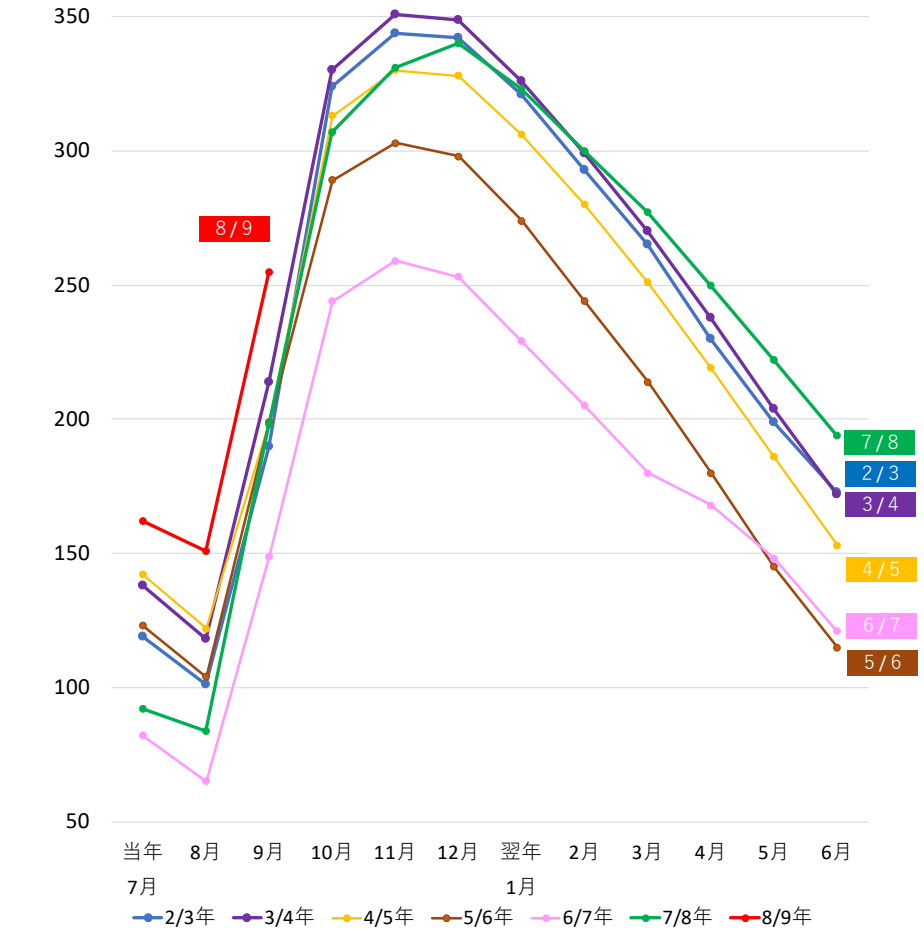
	出荷段階	販売段階	合計
7年9月末	144	53	198
前年差	+32	+17	+49
8年9月末	206	50	255
前年差	+61	▲ 3	+58

（万玄米トン）



○ 民間在庫量の月別の推移（うるち米）

（万玄米トン）



※22年以前は、政府備蓄米の運営を回転備蓄方式で実施していたため、政府備蓄米がこの他に主食用米として販売されている。
※出荷段階は玄米仕入数量が500ﾄﾝ以上の集荷業者等、販売段階は玄米仕入数量が4,000ﾄﾝ以上の卸売業者等を対象。
※令和８年の在庫率は、８／９年の需要見通し（695～712万玄米トン）により算出。

米の販売数量及び民間在庫の推移（令和８年９月）

○ 年間玄米仕入数量５万トン以上の米穀販売事業者における令和８年７月から９月の販売数量は、対前年比98%（うち中食・外食事業者等向けは対前年比93%、小売事業者向けは対前年比103%）と前年を下回る数量となっている。

○ 令和８年９月末現在の全国の民間在庫は、出荷・販売段階の計で対前年差＋58万トンの255万トンとなっており、出荷段階は対前年差＋61万トンの206万トン、販売段階は対前年差▲３万トンの50万トンとなっている。

【米穀販売事業者における販売数量の動向（前年同月比）（速報）】

	7年7月～8年6月計	8年7月	8月	9月	10月	11月	12月	9年1月	2月	3月	4月	5月	6月	8年7～9月計
小売事業者向け	93%	101%	103%	104%										103%
中食・外食事業者等向け	91%	94%	93%	91%										93%
販売数量計	92%	98%	98%	98%										98%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注１：報告対象業者は、年間玄米仕入数量50,000ﾄﾝ以上の販売事業者（年間取扱数量約150万ﾄﾝ（令和7年産主食用米等の生産量747万ﾄﾝの約2割））である。
２：上記の数値については、報告対象者が販売している精米の全体の数量の動向を指数化したものであり、個別の取引や産地銘柄毎の動向を表すものではない。
３：令和７年３月以降には、売り渡した政府備蓄米を含む。

【購入数量の推移（家計調査）】

（単位：g）

		7年7月～8年6月計	8年7月	8月	9月	10月	11月	12月	9年1月	2月	3月	4月	5月	6月	8年7月～8年8月計
米	購入数量	61,110	4,210	4,660											8,870
	前年同期比	101.7%	97.0%	87.8%											91.9%
パン	購入数量	41,696	3,554	3,429											6,983
	前年同期比	99.9%	106.8%	97.7%											102.2%
めん類	購入数量	34,126	3,182	3,039											6,221
	前年同期比	99.8%	97.9%	100.0%											98.9%

資料：総務省「家計調査」家計収支編 二人以上の世帯

【民間在庫量の推移（出荷＋販売段階）（速報）】

（単位：万トン(玄米)）

		当年7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月
７／８年	出荷+販売段階	92	84	198	307	331	340	323	300	277	250	222	194
	出荷段階	60	51	144	227	250	261	251	234	208	184	165	143
	販売段階	32	33	53	80	81	79	72	67	69	65	57	51
８／９年	出荷+販売段階	162	151	255									
	対前年差	+70	+66	+58									
	出荷段階	117	108	206									
	対前年差	+57	+57	+61									
	販売段階	45	42	50									
	対前年差	+13	+9	▲3									

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注１：水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。
２：報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。
３：期間については、8/9年であれば、令和8年7月～9年6月である。
４：令和７年３月以降には、売り渡した政府備蓄米の数量を含む。

産地別民間在庫の状況（令和８年９月）

（単位：千トン（玄米））

	７年８月 ①（千玄米トン）	７年９月 ②（千玄米トン）	８年８月 ③（千玄米トン）	対前年同月差 ④=③-①（千玄米トン）	対前年同月比 ⑤=③/①（%）	８年９月 ⑥（千玄米トン）	対前年同月差 ⑦=⑥-②（千玄米トン）	対前年同月比 ⑧=⑥/②（%）
北海道	75.4	214.9	112.9	+ 37.6	+ 49.9%	238.3	+ 23.4	+ 10.9%
青　森	38.5	139.0	63.0	+ 24.4	+ 63.4%	117.8	▲ 21.2	▲ 15.3%
岩　手	33.2	53.8	67.4	+ 34.2	+ 102.9%	75.0	+ 21.2	+ 39.5%
宮　城	47.7	86.9	74.9	+ 27.1	+ 56.9%	89.8	+ 2.9	+ 3.3%
秋　田	43.3	140.0	110.8	+ 67.5	+ 155.8%	267.2	+ 127.1	+ 90.8%
山　形	61.2	98.1	82.9	+ 21.7	+ 35.5%	118.8	+ 20.8	+ 21.2%
福　島	47.8	81.1	117.7	+ 69.9	+ 146.2%	122.0	+ 40.8	+ 50.3%
茨　城	39.8	128.2	62.2	+ 22.5	+ 56.4%	120.6	▲ 7.6	▲ 5.9%
栃　木	30.2	96.4	71.3	+ 41.1	+ 136.3%	118.3	+ 21.9	+ 22.7%
群　馬	6.5	5.2	17.9	+ 11.4	+ 176.0%	16.0	+ 10.8	+ 205.9%
埼　玉	4.5	12.3	16.4	+ 11.9	+ 263.4%	22.9	+ 10.5	+ 85.6%
千　葉	65.9	104.7	73.1	+ 7.2	+ 10.9%	127.3	+ 22.7	+ 21.6%
東　京	0.0	0.0	0.0	+ 0.0	－	0.0	+ 0.0	－
神奈川	0.3	0.6	0.2	+ 0.0	▲ 13.8%	0.4	▲ 0.2	▲ 30.1%
山　梨	1.2	1.8	1.5	+ 0.3	+ 25.3%	1.8	+ 0.0	+ 1.0%
長　野	16.8	28.7	26.7	+ 9.9	+ 58.7%	35.5	+ 6.8	+ 23.8%
静　岡	7.7	18.9	9.7	+ 2.0	+ 26.4%	16.9	▲ 2.0	▲ 10.4%
新　潟	53.4	231.4	119.1	+ 65.7	+ 123.1%	291.2	+ 59.8	+ 25.9%
富　山	25.2	69.8	32.6	+ 7.4	+ 29.3%	74.4	+ 4.6	+ 6.6%
石　川	21.6	65.8	30.9	+ 9.3	+ 43.1%	87.4	+ 21.7	+ 32.9%
福　井	21.5	45.9	33.1	+ 11.6	+ 53.7%	64.0	+ 18.0	+ 39.3%
岐　阜	7.7	9.2	19.5	+ 11.8	+ 152.8%	21.4	+ 12.2	+ 132.4%
愛　知	9.5	14.5	17.5	+ 8.1	+ 85.0%	23.6	+ 9.1	+ 62.4%
三　重	15.3	35.5	26.0	+ 10.7	+ 70.2%	58.7	+ 23.2	+ 65.4%

	７年８月 ①（千玄米トン）	７年９月 ②（千玄米トン）	８年８月 ③（千玄米トン）	対前年同月差 ④=③-①（千玄米トン）	対前年同月比 ⑤=③/①（%）	８年９月 ⑥（千玄米トン）	対前年同月差 ⑦=⑥-②（千玄米トン）	対前年同月比 ⑧=⑥/②（%）
滋　賀	12.7	41.1	33.0	+ 20.3	+ 159.4%	67.5	+ 26.4	+ 64.2%
京　都	1.9	6.4	3.8	+ 1.9	+ 101.6%	8.3	+ 1.9	+ 29.7%
大　阪	0.1	0.1	0.2	+ 0.2	+ 205.2%	0.3	+ 0.1	+ 95.9%
兵　庫	10.4	21.2	19.9	+ 9.5	+ 91.7%	33.7	+ 12.5	+ 58.9%
奈　良	1.2	1.4	3.3	+ 2.1	+ 184.1%	3.2	+ 1.8	+ 126.0%
和歌山	0.4	1.2	0.9	+ 0.5	+ 130.8%	1.1	▲ 0.1	▲ 7.1%
鳥　取	9.0	14.3	18.4	+ 9.4	+ 104.6%	24.7	+ 10.4	+ 72.4%
島　根	5.6	15.0	12.8	+ 7.2	+ 128.2%	22.9	+ 8.0	+ 53.2%
岡　山	14.9	17.3	23.3	+ 8.4	+ 56.7%	27.1	+ 9.9	+ 57.1%
広　島	6.2	17.6	11.9	+ 5.8	+ 93.6%	29.7	+ 12.1	+ 68.9%
山　口	7.6	14.6	15.2	+ 7.7	+ 101.2%	24.6	+ 10.0	+ 68.7%
徳　島	5.9	12.1	8.9	+ 3.0	+ 50.0%	13.3	+ 1.2	+ 10.3%
香　川	3.2	5.3	6.2	+ 3.0	+ 92.1%	8.2	+ 2.8	+ 52.7%
愛　媛	3.0	4.5	7.4	+ 4.4	+ 148.6%	9.9	+ 5.4	+ 121.0%
高　知	7.7	7.5	11.0	+ 3.3	+ 42.7%	10.8	+ 3.2	+ 42.8%
福　岡	9.4	18.8	20.4	+ 11.0	+ 116.2%	29.5	+ 10.7	+ 56.8%
佐　賀	7.3	7.5	20.5	+ 13.2	+ 181.1%	21.1	+ 13.6	+ 182.4%
長　崎	2.6	2.8	4.0	+ 1.4	+ 52.9%	4.2	+ 1.4	+ 49.4%
熊　本	9.5	13.2	25.9	+ 16.4	+ 173.2%	28.9	+ 15.6	+ 118.2%
大　分	3.6	5.3	8.9	+ 5.3	+ 148.6%	10.1	+ 4.8	+ 90.6%
宮　崎	4.7	5.7	8.0	+ 3.2	+ 68.7%	6.3	+ 0.6	+ 10.8%
鹿児島	7.0	8.3	14.1	+ 7.2	+ 102.8%	14.4	+ 6.1	+ 72.8%
沖　縄	0.5	0.3	0.5	+ 0.0	▲ 0.8%	0.4	+ 0.1	+ 27.3%
全　国	84万トン	198万トン	151万トン	+66万トン	+ 79.0%	255万トン	+58万トン	+ 29.2%

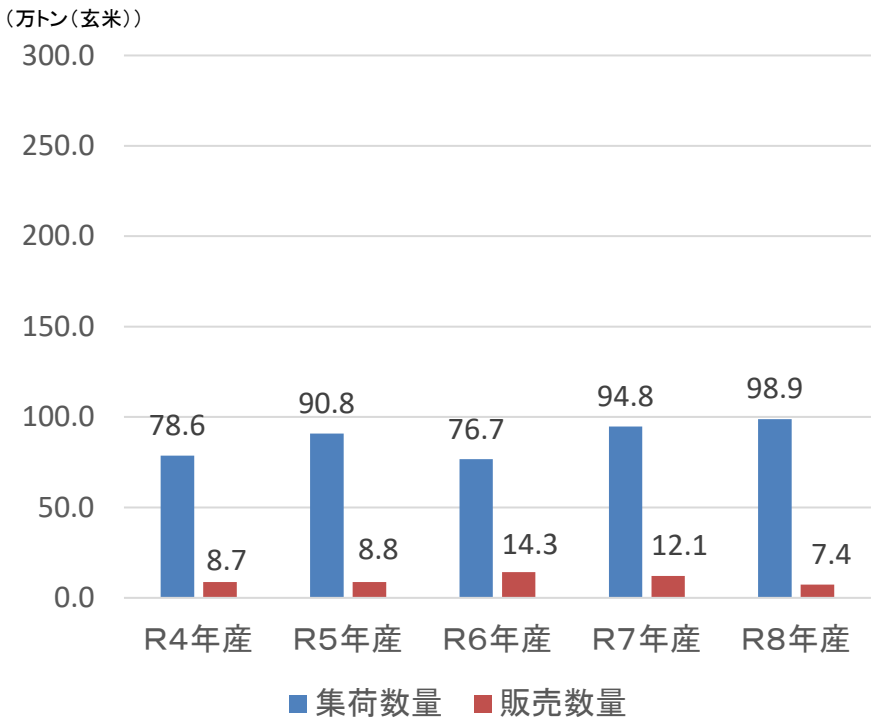
資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注：1　水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。
　　2　報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。
　　3　売り渡した政府備蓄米の数量を含む。

令和８年産米の集荷業者の集荷・販売状況

○　令和８年産米の集荷数量は、令和８年９月末現在で対前年差＋4.1万玄米トンの98.9万玄米トン。

○　一方、集荷業者から卸売業者等への販売数量は、９月末現在で対前年差▲4.7万玄米トンの7.4万玄米トン。

【集荷業者の集荷･販売数量の推移9月末時点）（速報）】



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注：集荷数量及び販売数量は、年間の玄米仕入数量が5,000トン以上の集荷業者を対象とした当該年産の出回りから令和8年9月までの累計数量。

【集荷業者の集荷数量の前年差】

（単位：万トン（玄米））

	9月末	10月末	11月末	12月末	1月末	2月末	3月末	4月末	5月末	6月末	7月末	8月末
6年産	76.7	158.9	191.1	214.2	219.9	223.2	225.0	240.4	241.7	242.8	243.2	243.2
7年産	94.8	185.5	218.4	249.1	256.4	260.9	266.1	266.0	267.1	268.7	269.5	269.9
8年産	98.9											
前年差	+4.1											

	3月末	4月末	5月末	6月末	7月末	8月末
うち備蓄米（6年産）	0.3	13.9	14.0	14.0	14.0	14.0

【集荷業者の販売数量の前年差】

（単位：万トン（玄米））

	9月末	10月末	11月末	12月末	1月末	2月末	3月末	4月末	5月末	6月末	7月末	8月末
6年産	14.3	29.8	45.0	62.0	77.8	95.7	115.0	139.1	159.4	176.5	194.0	207.4
7年産	12.1	28.7	37.5	50.4	63.3	78.6	100.1	118.1	132.2	150.0	170.6	187.5
8年産	7.4											
前年差	▲4.7											

	3月末	4月末	5月末	6月末	7月末	8月末
うち備蓄米（6年産）	0.3	3.8	8.9	12.4	13.9	14.0

精米事業者のとう精数量実績調査結果（とう精数量）について

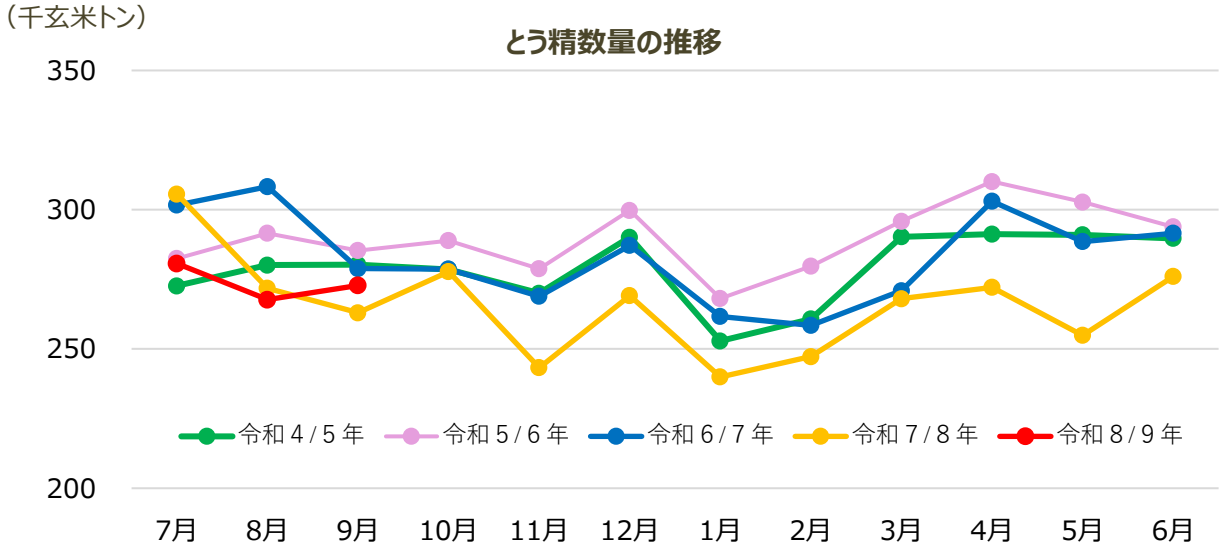
○　精米事業者による令和８年７月～９月のとう精数量は、前年（令和７/８年）の同期と比べ、 ▲1.9万玄米トン（対前年比97.7%）。

○ とう精数量の推移（速報）

（千玄米トン）

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	年計	7～9月計	対前年同期差	対前年同期比	対3カ年平均同期差	対3カ年平均同期比
①令和4/5年	272.7	280.1	280.3	278.6	270.0	290.1	252.9	260.8	290.3	291.2	291.0	289.7	3,347.7	833.1	—	—	—	—
②令和5/6年	282.5	291.5	285.3	288.9	278.8	299.8	268.1	279.7	295.9	310.1	302.8	293.8	3,477.3	859.3	+26.3	103.2%	—	—
③令和6/7年	301.7	308.3	278.9	278.7	268.9	287.2	261.7	258.5	271.0	303.1	288.6	291.5	3,398.0	888.8	+29.5	103.4%	—	—
（備蓄米除く）	(301.7)	(308.3)	(278.9)	(278.7)	(268.9)	(287.2)	(261.7)	(258.5)	(271.0)	(271.8)	(235.7)	(202.4)	(3,224.7)	(888.8)	(+29.5)	(103.4%)		
④令和7/8年	305.6	271.8	263.0	277.7	243.3	269.1	240.0	247.3	268.1	272.1	254.9	276.1	3,189.0	840.4	▲48.4	94.6%	—	—
（備蓄米除く）	(206.9)	(211.0)	(233.1)	(256.1)	(230.8)	(261.7)	(233.8)	(243.3)	(265.4)	(271.2)	(254.4)	(275.8)	(2,943.4)	(650.9)	(▲237.9)	(73.2%)		
3カ年平均（②～④）	296.6	290.5	275.7	281.8	263.7	285.4	256.6	261.8	278.3	295.1	282.1	287.1	3,354.7	862.9	—	—	—	—
令和8/9年	280.7	267.7	272.9										—	821.3	▲19.1	97.7%	▲41.6	95.2%
（備蓄米除く）	(280.7)	(267.7)	(272.9)										—	(821.3)	(+170.3)	(126.2%)	(—)	(—)

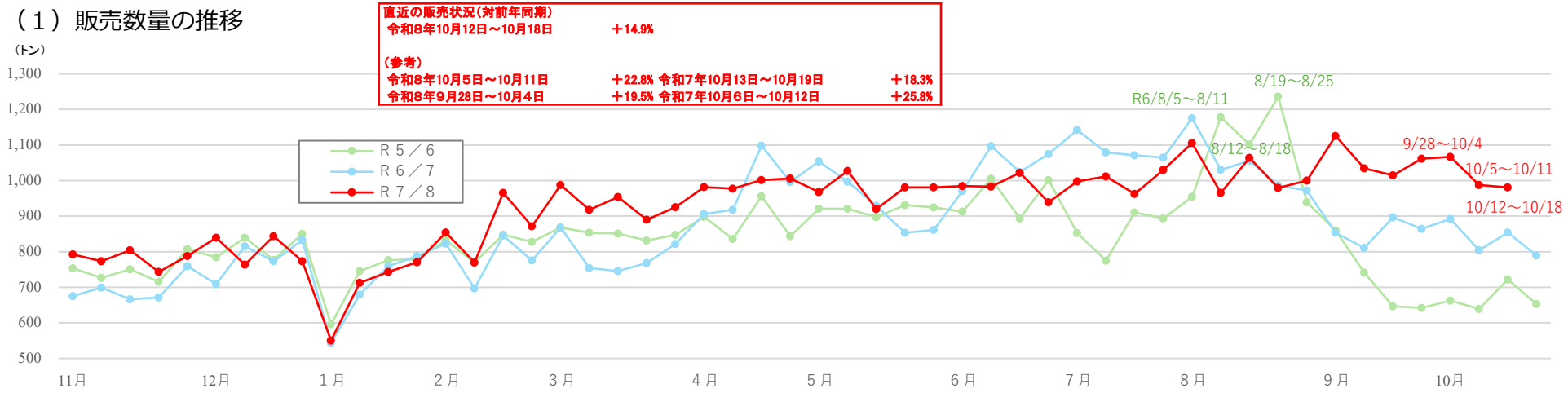
注１：とう精数量は、398の精米事業者の実績を集計した速報値。
注２：とう精数量は、玄米投入量である。



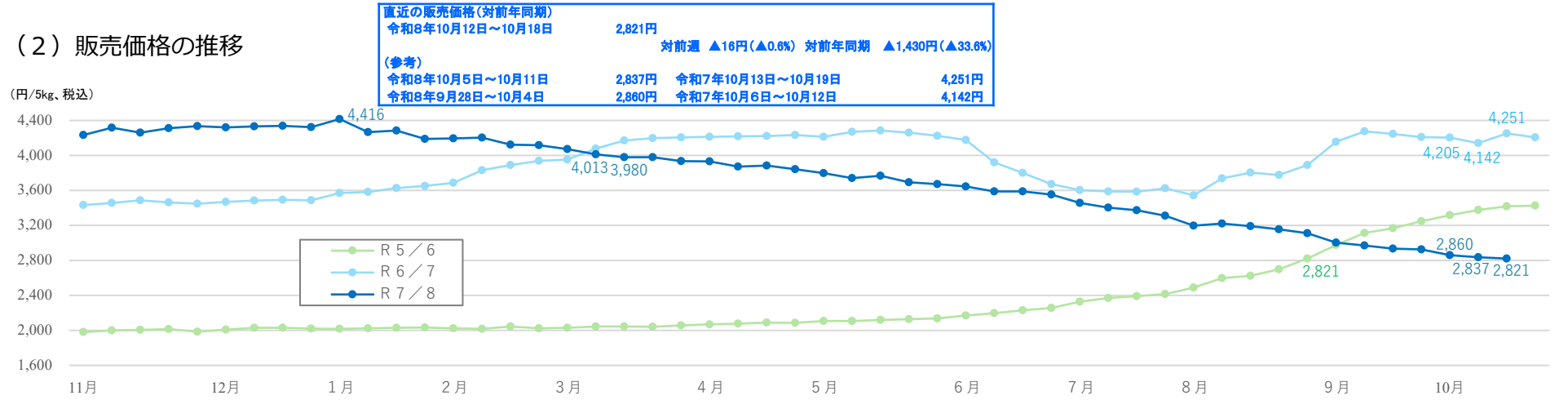
スーパーでの販売数量・価格の推移（ＰＯＳデータに基づき作成、全国・週次）

○ 令和８年10月12日の週の平均価格は、2,821円/５kg（前週比▲16円）。
○ 平均価格については、令和７年６月以降、政府備蓄米の流通により一旦低下したが、９月以降は4,000円/5kgを上回る水準で推移。
令和８年１月以降、下落基調に転じ、令和８年９月７日の週に3,000円を下回った。
○ 販売数量については、政府備蓄米の流通時期に増加、その後は平年並みに推移。
令和８年２月から４月にかけ増加したものの、その後は平年並みに推移し、直近は新米の出回り等を背景に堅調に推移。

（１）販売数量の推移



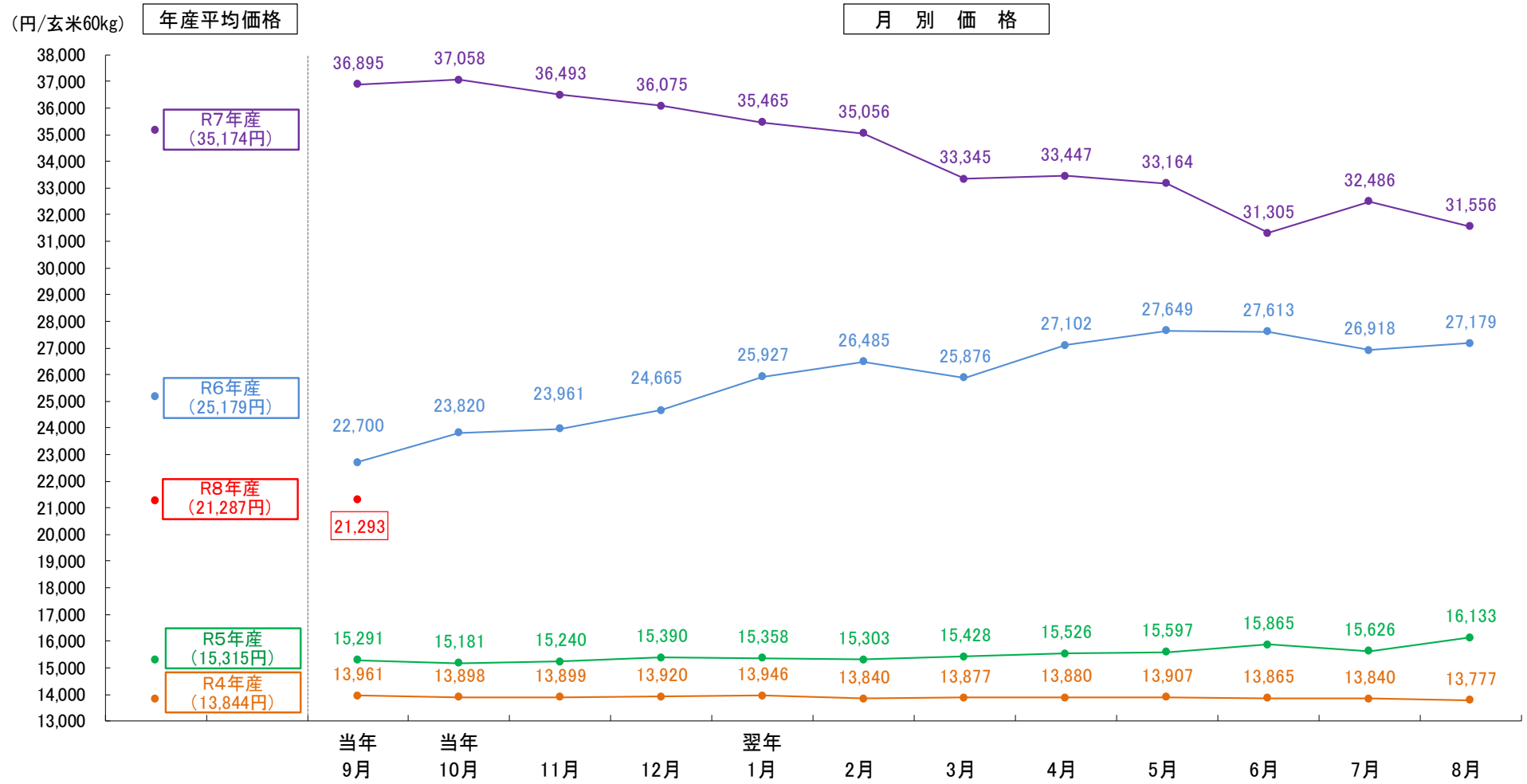
（２）販売価格の推移



資料：(株)KSP-SPが提供するPOSデータに基づいて農林水産省が作成
注１：(株)KSP-SPが提供するPOSデータは、全国約1,000店舗のスーパーから購入したデータに基づくものである。
注２：週次データを月ベースに当てはめているため、実際の月とは若干異なる場合がある。
注３：『ブレンド米等』には、ブレンド米のほか、PB商品等も含まれうる。
注４：ラウンドの関係で対前週比等の数値は一致しないことがある。

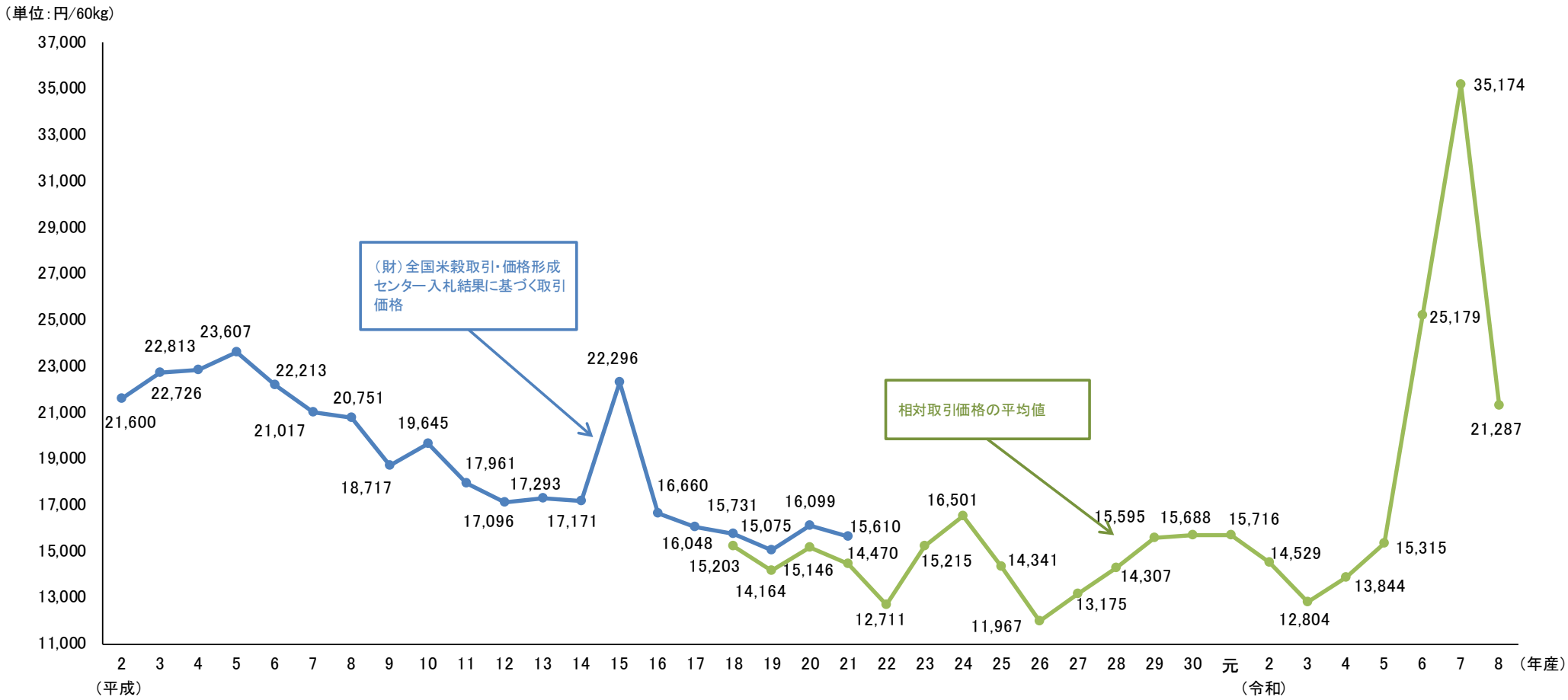
相対取引価格の推移（令和4年産～令和8年産）

- ○ 令和８年産米の令和８年９月の相対取引価格は、全銘柄平均で21,293円/玄米60kgとなり、対前年同月▲15,602円（▲42%）、対前々年同月▲1,407円（▲６%）となったところ。
- ○ 相対取引数量は、5.4万トンとなり、対前年同月比▲66%となったところ。令和７年産米の取引も継続していることなどから、例年に比べ新穀である令和８年産米の取引数量は少ない。
- ○ 年産平均価格は21,287円/玄米60kgとなり、対前年▲13,887円（▲39%）、対前々年▲3,892円（▲15%）となった。



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注１：運賃、包装代、消費税相当額を含む１等米の価格である。
　２：グラフ左側の年産平均価格は、当該年産の出回りから翌年10月まで（７年産及び８年産は出回りから令和８年９月までの速報値）の通年平均価格、右側は月ごとの価格の推移。

長期的な主食用米の価格の動向



資料：（財）全国米穀取引・価格形成センター入札結果、農林水産省「相対取引価格」
注１：価格には、包装代、運賃、消費税相当額等を含む。
注２：年産別平均価格（令和７年産及び令和８年産は、出回りから令和８年９月までの速報値）。

※・コメ価格センター取引は、自主流通米の指標価格の形成を図るために実施されていたが、平成16年の食糧法改正により計画流通制度が廃止され、義務上場がなくなったこと等を背景に取引が低調となり、平成21年産をもって取引を中止。
・コメ価格センター取引が低調となったことを受けて、コメ価格センター取引価格の指標性を確認する観点から、相対取引価格について、農林水産省が18年産米から年間取扱数量5,000トン以上の全国出荷団体等と卸売業者の取引価格を調査、公表。その後も米の価格動向を把握するため引き続き実施。

令和8年産米の相対取引価格（令和8年9月の年産平均価格）

（単位：円／玄米60kg（税込））

産地	品種銘柄	令和８年産 出回り～8年9月 ①	令和７年産 出回り～8年9月 ②	価格差 ①－②
北海道	ななつぼし	18,702	34,411	▲ 15,709
北海道	ゆめぴりか	21,196	37,100	▲ 15,904
北海道	きらら３９７	-	33,361	-
青森	まっしぐら	11,854	33,001	▲ 21,147
青森	はれわたり	14,551	34,749	▲ 20,198
岩手	ひとめぼれ	25,259	35,974	▲ 10,715
岩手	銀河のしずく	25,596	36,612	▲ 11,016
岩手	あきたこまち	-	36,419	-
宮城	ひとめぼれ	22,874	36,075	▲ 13,201
宮城	つや姫	22,911	34,662	▲ 11,751
宮城	ササニシキ	23,435	36,051	▲ 12,616
秋田	あきたこまち	23,309	36,361	▲ 13,052
秋田	ひとめぼれ	-	33,514	-
秋田	めんこいな	22,906	34,405	▲ 11,499
山形	はえぬき	24,731	34,170	▲ 9,439
山形	つや姫	26,922	38,489	▲ 11,567
山形	雪若丸	-	34,927	-
福島	コシヒカリ（中通り）	-	35,232	-
福島	コシヒカリ（会津）	-	36,616	-
福島	コシヒカリ（浜通り）	-	34,752	-
福島	天のつぶ	-	33,405	-
福島	ひとめぼれ	20,907	34,961	▲ 14,054
茨城	コシヒカリ	20,206	36,725	▲ 16,519
茨城	にじのきらめき	16,397	33,921	▲ 17,524
茨城	あきたこまち	15,868	35,048	▲ 19,180
栃木	コシヒカリ	21,444	36,229	▲ 14,785
栃木	とちぎの星	12,975	33,559	▲ 20,584
栃木	あさひの夢	-	33,363	-
群馬	あさひの夢	-	33,237	-
群馬	にじのきらめき	-	29,770	-
埼玉	彩のきずな	-	33,522	-
埼玉	彩のかがやき	-	33,776	-
埼玉	コシヒカリ	-	35,507	-
千葉	コシヒカリ	17,054	35,647	▲ 18,593
千葉	ふさこがね	15,128	33,276	▲ 18,148
千葉	ふさおとめ	16,558	33,103	▲ 16,545
山梨	コシヒカリ	-	35,978	-
長野	コシヒカリ	24,380	33,550	▲ 9,170
長野	あきたこまち	23,285	33,649	▲ 10,364
静岡	コシヒカリ	23,976	34,010	▲ 10,034
静岡	きぬむすめ	-	28,866	-
静岡	にこまる	-	39,916	-
新潟	コシヒカリ（一般）	22,261	37,343	▲ 15,082
新潟	コシヒカリ（魚沼）	25,218	40,875	▲ 15,657
新潟	コシヒカリ（佐渡）	24,679	37,909	▲ 13,230
新潟	コシヒカリ（岩船）	23,353	37,566	▲ 14,213
新潟	こしいぶき	19,547	33,634	▲ 14,087
富山	コシヒカリ	23,824	35,660	▲ 11,836
富山	てんたかく	24,930	34,216	▲ 9,286
富山	富富富	26,509	32,537	▲ 6,028
石川	コシヒカリ	24,221	35,772	▲ 11,551
石川	ゆめみづほ	-	33,240	-
石川	ひゃくまん穀	23,997	34,029	▲ 10,032
福井	コシヒカリ	20,944	33,470	▲ 12,526
福井	ハナエチゼン	19,727	32,904	▲ 13,177
福井	あきさかり	-	32,361	-
岐阜	ハツシモ	-	35,523	-
岐阜	コシヒカリ	-	36,434	-
岐阜	ほしじるし	-	33,867	-
愛知	あいちのかおり	-	31,846	-
愛知	コシヒカリ	-	-	-
愛知	あいちのこころ	-	-	-
三重	コシヒカリ（一般）	25,753	38,775	▲ 13,022
三重	コシヒカリ（伊賀）	-	39,574	-
三重	キヌヒカリ	-	36,359	-
滋賀	コシヒカリ	23,588	34,586	▲ 10,998
滋賀	みずかがみ	24,179	34,783	▲ 10,604
滋賀	キヌヒカリ	-	33,557	-
京都	コシヒカリ	23,246	35,799	▲ 12,553
京都	キヌヒカリ	-	33,360	-
京都	ヒノヒカリ	-	34,512	-
兵庫	コシヒカリ	22,514	36,206	▲ 13,692
兵庫	ヒノヒカリ	-	30,999	-
兵庫	キヌヒカリ	-	32,112	-
奈良	ヒノヒカリ	-	35,680	-
鳥取	きぬむすめ	-	33,774	-
鳥取	コシヒカリ	-	34,737	-
鳥取	ひとめぼれ	-	33,899	-
島根	きぬむすめ	22,240	33,158	▲ 10,918
島根	コシヒカリ	22,900	34,973	▲ 12,073
島根	つや姫	22,691	33,278	▲ 10,587
岡山	アケボノ	-	34,723	-
岡山	きぬむすめ	-	35,413	-
岡山	コシヒカリ	21,241	36,103	▲ 14,862
広島	コシヒカリ	22,888	34,753	▲ 11,865
広島	あきさかり	21,640	33,853	▲ 12,213
広島	あきろまん	-	34,502	-
山口	きぬむすめ	-	33,297	-
山口	コシヒカリ	22,880	34,122	▲ 11,242
山口	ひとめぼれ	-	33,514	-
徳島	コシヒカリ	22,942	32,235	▲ 9,293
徳島	あきさかり	21,168	31,199	▲ 10,031
香川	コシヒカリ	-	34,380	-
香川	ヒノヒカリ	-	34,050	-
香川	あきさかり	-	33,764	-
愛媛	コシヒカリ	21,932	36,959	▲ 15,027
愛媛	ひめの凜	-	-	-
愛媛	にこまる	-	-	-
高知	コシヒカリ	21,259	35,299	▲ 14,040
高知	ヒノヒカリ	-	34,327	-
福岡	夢つくし	24,166	33,173	▲ 9,007
福岡	元気つくし	-	33,455	-
福岡	ヒノヒカリ	-	32,642	-
佐賀	さがびより	-	35,671	-
佐賀	夢しずく	-	35,006	-
佐賀	ひなたまる	-	-	-
長崎	にこまる	-	34,723	-
長崎	なつほのか	-	34,604	-
長崎	ヒノヒカリ	-	34,504	-
熊本	ヒノヒカリ	-	35,260	-
熊本	くまさんの輝き	-	-	-
熊本	森のくまさん	-	-	-
大分	ヒノヒカリ	-	33,618	-
大分	なつほのか	-	34,905	-
大分	ひとめぼれ	-	35,050	-
宮崎	コシヒカリ	-	36,508	-
宮崎	ヒノヒカリ	-	36,275	-
鹿児島	ヒノヒカリ	-	36,676	-
鹿児島	あきほなみ	-	37,066	-
鹿児島	コシヒカリ	23,853	31,679	▲ 7,826
全銘柄平均価格		21,287	35,174	▲ 13,887

注1：農林水産省が調査・公表した出回りからの年産平均価格（令和7年産及び令和8年産は出回りから8年9月までの速報値）であり、調査対象事業者は、一定規模以上の集荷業者（年間の販売数量5,000トン以上等）。
2：運賃、包装代、消費税相当額を含む1等米の価格である。なお、価格に含む消費税は、軽減税率の対象である米穀の包装代などの品代等は8%、運賃等は10%で算定している。
3：「－」については、当該年産において報告対象としていない産地品種銘柄又は取引数量の累計が100トン未満であり、公表を行ってないもの。

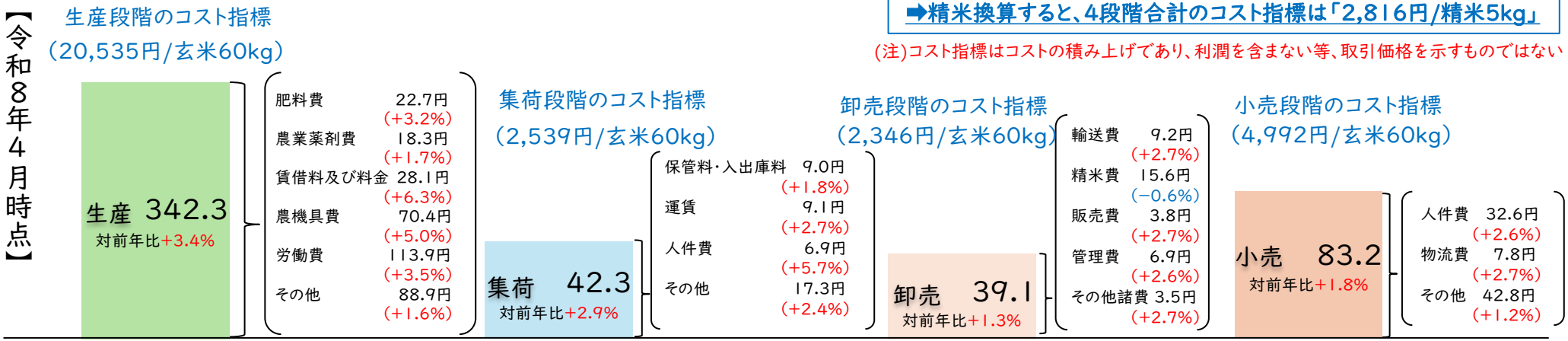
米のコスト指標（令和8年4月7日公表）

（円/玄米1kg）（税込）
（玄米から精米の歩留まりを0.9とする）

【令和8年4月時点】

4段階（生産～小売）の合計は、506.9円/玄米1kg
➡精米換算すると、4段階合計のコスト指標は「2,816円/精米5kg」

(注)コスト指標はコストの積み上げであり、利潤を含まない等、取引価格を示すものではない



【令和7年4月時点】

4段階（生産～小売）の合計は、492.4円/玄米1kg
➡精米換算すると、4段階合計のコスト指標は「2,736円/精米5kg」

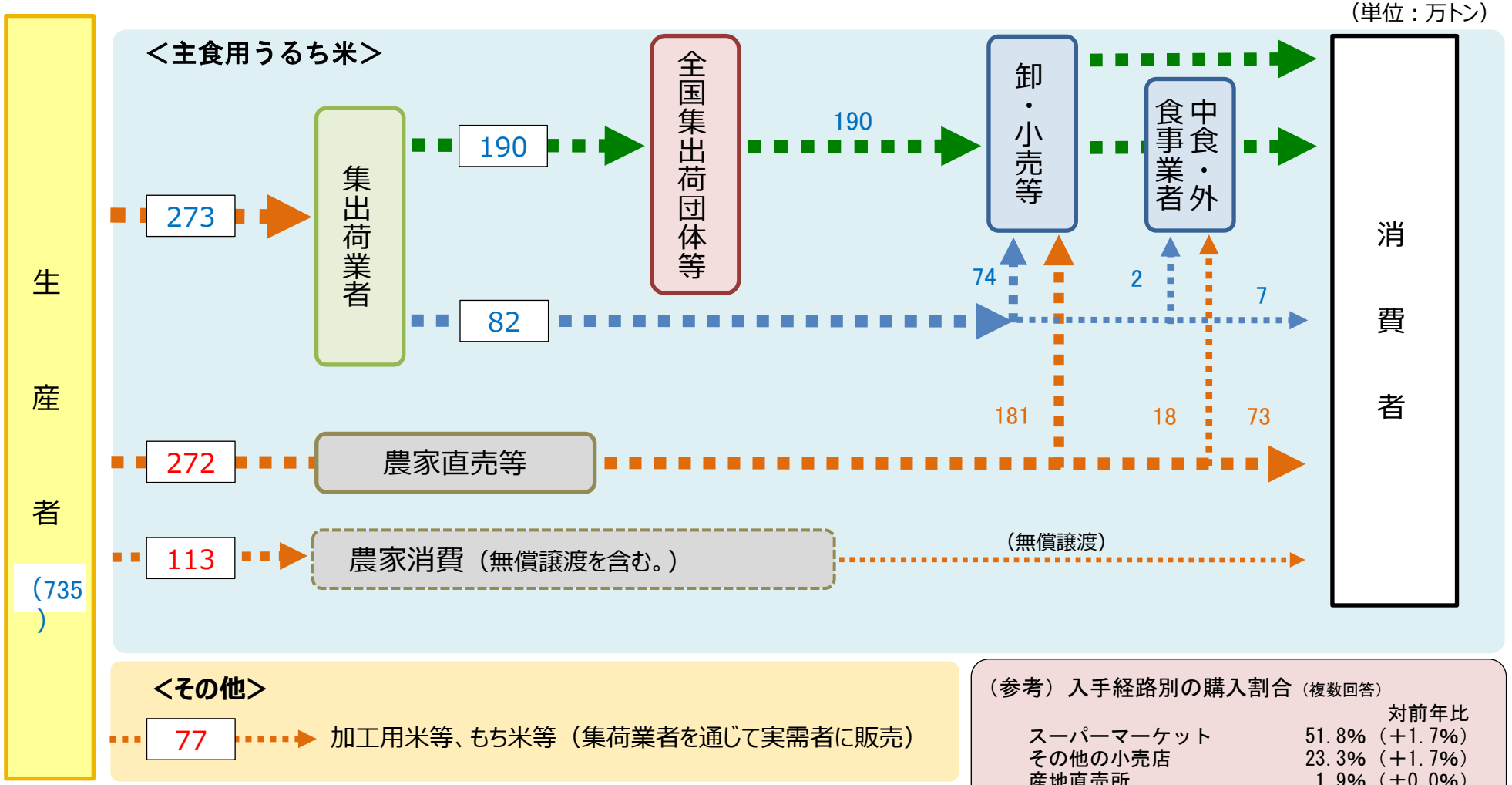
(注)コスト指標はコストの積み上げであり、利潤を含まない等、取引価格を示すものではない



注 四捨五入の関係で各費目の合計や変動額と変動率が一致しない場合がある。

米の流通経路別流通量の状況（令和６年産米）

（単位：万トン）



資料：農林水産省「作物統計」、「生産者の米穀在庫等調査」、「農林業センサス」、「米穀の取引に関する報告」及び全国出荷団体調べ等を基に推計。

注１：集出荷業者には、全集連系を含む（ＪＡ等への出荷量273万トンのうち21万トンが全集連系）。
注２：「卸・小売等」には、加工事業者等を含む。
注３：主食用うるち米には、政府が買い入れた備蓄米を含む。
注４：ラウンドの関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

（参考）入手経路別の購入割合（複数回答）

	対前年比
スーパーマーケット	51.8%（+1.7%）
その他の小売店	23.3%（+1.7%）
産地直売所	1.9%（±0.0%）
インターネット	8.3%（▲0.3%）
生産者から直接購入	4.8%（±0.0%）
無償譲渡	14.7%（▲0.6%）

※　米穀安定供給確保支援機構調べを元に農林水産省で算出（令和６年４月から令和７年３月の年平均）

米の流通の状況（平成16～令和6年産米）

【生産段階】

（単位：万トン（玄米））

年産	生産量		出荷・販売		農家消費等		その他		加工用米等		もち米		減耗	
H16	872	100.0%	636	72.9%	180	20.6%	56	6.4%	12	1.4%	27	3.1%	17	1.9%
17	906	100.0%	653	72.1%	183	20.2%	62	6.8%	13	1.4%	31	3.4%	18	2.0%
18	855	100.0%	631	73.8%	165	19.3%	59	6.9%	15	1.8%	27	3.2%	17	2.0%
19	871	100.0%	632	72.6%	174	20.0%	65	7.5%	17	2.0%	31	3.6%	17	2.0%
20	882	100.0%	636	72.1%	172	19.5%	64	7.3%	16	1.8%	30	3.4%	18	2.0%
21	847	100.0%	624	73.7%	161	19.0%	62	7.3%	16	1.9%	29	3.4%	17	2.0%
22	848	100.0%	594	70.0%	174	20.5%	71	8.3%	22	2.6%	32	3.8%	17	2.0%
23	840	100.0%	604	71.9%	170	20.2%	66	7.9%	16	2.0%	33	3.9%	17	2.0%
24	852	100.0%	616	72.3%	167	19.5%	69	8.1%	19	2.2%	33	3.9%	17	2.0%
25	860	100.0%	626	72.8%	165	19.2%	69	8.0%	21	2.4%	31	3.6%	17	2.0%
26	844	100.0%	616	73.1%	154	18.3%	73	8.7%	27	3.2%	30	3.5%	17	2.0%
27	799	100.0%	579	72.5%	146	18.3%	74	9.2%	25	3.1%	33	4.1%	16	2.0%
28	804	100.0%	582	72.3%	146	18.1%	77	9.6%	26	3.2%	35	4.4%	16	2.0%
29	782	100.0%	569	72.8%	139	17.7%	74	9.5%	26	3.3%	33	4.2%	16	2.0%
30	778	100.0%	576	74.0%	130	16.7%	73	9.3%	28	3.6%	29	3.7%	16	2.0%
R元	776	100.0%	577	74.3%	129	16.6%	70	9.1%	27	3.4%	28	3.7%	16	2.0%
2	776	100.0%	580	74.7%	124	16.0%	72	9.3%	28	3.5%	29	3.8%	16	2.0%
3	756	100.0%	561	74.2%	121	16.0%	74	9.8%	28	3.7%	31	4.1%	15	2.0%
4	727	100.0%	537	73.9%	115	15.8%	75	10.3%	29	4.0%	31	4.2%	15	2.0%
5	717	100.0%	533	74.3%	110	15.4%	74	10.3%	29	4.0%	30	4.2%	14	2.0%
6	735	100.0%	545	74.2%	113	15.3%	77	10.5%	32	4.4%	30	4.1%	15	2.0%

【出荷・販売段階】

（単位：万トン（玄米））

年産	出荷・販売		農協						全集連系業者						生産者直接販売等	
					販売委託		直販				販売委託		直販			
H16	636	72.9%	390	44.7%	350	40.1%	40	4.6%	20	2.3%	7	0.8%	12	1.4%	226	25.9%
17	653	72.1%	405	44.7%	352	38.9%	53	5.8%	22	2.4%	8	0.9%	13	1.4%	226	24.9%
18	631	73.8%	384	44.9%	320	37.4%	64	7.5%	21	2.5%	9	1.1%	13	1.5%	227	26.5%
19	632	72.6%	378	43.4%	308	35.4%	70	8.0%	21	2.4%	9	1.0%	13	1.5%	232	26.6%
20	636	72.1%	390	44.2%	303	34.4%	87	9.9%	21	2.4%	8	0.9%	14	1.6%	224	25.4%
21	624	73.7%	372	43.9%	294	34.7%	78	9.2%	22	2.6%	7	0.8%	15	1.8%	230	27.2%
22	594	70.0%	369	43.5%	285	33.6%	84	9.9%	21	2.5%	6	0.7%	15	1.8%	203	24.0%
23	604	71.9%	351	41.8%	266	31.7%	85	10.1%	21	2.5%	6	0.8%	15	1.8%	232	27.6%
24	616	72.3%	352	41.3%	273	32.1%	79	9.3%	21	2.4%	6	0.7%	15	1.8%	243	28.6%
25	626	72.8%	373	43.4%	293	34.0%	81	9.4%	22	2.6%	7	0.8%	15	1.8%	231	26.8%
26	616	73.1%	369	43.7%	285	33.8%	84	10.0%	24	2.8%	9	1.0%	15	1.8%	223	26.5%
27	579	72.5%	344	43.1%	258	32.3%	86	10.7%	22	2.7%	7	0.9%	14	1.8%	213	26.7%
28	582	72.3%	338	42.1%	252	31.3%	86	10.8%	22	2.7%	6	0.8%	16	1.9%	221	27.5%
29	569	72.8%	315	40.3%	234	29.9%	81	10.4%	20	2.6%	5	0.7%	15	1.9%	234	29.9%
30	576	74.0%	298	38.4%	219	28.1%	80	10.2%	19	2.4%	5	0.6%	13	1.7%	259	33.3%
R元	577	74.3%	308	39.7%	231	29.7%	77	10.0%	21	2.7%	6	0.8%	14	1.9%	247	31.9%
2	580	74.7%	312	40.2%	242	31.2%	70	9.0%	21	2.7%	6	0.8%	15	1.9%	246	31.7%
3	561	74.2%	303	40.1%	240	31.7%	63	8.4%	21	2.7%	5	0.7%	15	2.0%	238	31.4%
4	537	73.9%	284	39.0%	220	30.2%	64	8.8%	19	2.6%	4	0.6%	14	2.0%	235	32.3%
5	533	74.3%	279	39.0%	214	29.9%	66	9.2%	20	2.8%	4	0.6%	16	2.2%	233	32.5%
6	545	74.2%	252	34.3%	187	25.5%	65	8.9%	21	2.8%	3	0.5%	17	2.3%	272	37.0%

資料：農林水産省「作物統計」、「生産者の米穀現在高等調査」（22年産以降は「生産者の米穀在庫等調査」）、「農林業センサス」、「米穀の取引に関する報告」及び全国出荷団体調べ等を基に推計。

注：1）「生産者の米穀在庫等調査」（平成21年産までは「生産者の米穀現在高等調査」）における調査対象農家の定義の変更に伴い、平成22年産から推計方法を変更している。
2）生産段階には、このほか、①集荷円滑化対策による区分出荷米（17年産8万トン、20年産米10万トン）、②品質低下に伴う歩留り減（22年産米10万トン）がある。
3）ラウンドの関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

米（玄米・精米）の物流合理化について

○ 全国的にトラックドライバー不足が深刻化する中、重量物である米は、特に敬遠される傾向。産地から最終消費地まで主食である米を確実に届けていくため、玄米・精米物流が直面する課題の解決が必要。

○ また、2024年度からトラックドライバーに時間外労働の上限規制（年960時間）が適用されることから、物流を持続可能なものとするため、パレット・フレコン規格の統一化、鉄道貨物などモーダルシフトを推進。

フレコン流通の取組（玄米物流）

・フレコンバッグは紙袋に比べて手荷役が少なく、積み降ろし時間が1/2から1/3に短縮されるが、その普及率は４割。

○ 農産物検査規格として「推奨フレコンバッグ」の規格を設定（R2.6.30告示改正、R3.6.1施行）



○ 「推奨フレコンバッグ」の普及に向けた現地実証を実施

玄米の推奨規格フレコンを活用した物流効率化実証支援（令和２～４年度）

配送リードタイムの改善（精米物流）

・各米卸事業者が数多くの種類の商品を、個別に各店舗や各配送センターに向けて納品するため、多頻度・少量配送が常態化。

・発注から納品までのリードタイム（発注後○日）や精米年月日から納品までのリードタイム（精米後○日）が短い。

○ 「精米年月旬（上／中／下旬）」表示の導入

食品表示基準改正（R2.3.27）により、これまでの「精米年月日」表示に加えて「精米年月旬」表示の利用が可能。

旬表示商品の例



○ 配送リードタイムの延長等に関する要請文の発出

米卸団体（全農、全米販）が、小売・量販店、中食・外食、生協の団体に対して、配送リードタイムの緩和、年月旬表示の導入、納品条件の明確化等に関する依頼文を発出（R2.3）。

○ 輸送効率の改善に向けた共同配送実証を実施

精米安定供給のための物流実態把握及び改善に関する実証事業（令和４年度）

モーダルシフトの取組

・全農においては、休日の運休列車を活用し、米などの専用の貨物列車「全農号」を青森→大阪間で運行。
・秋田・新潟・金沢などの途中駅で米などを積み込み、西日本・東海地区などの消費地へ輸送。
・１２ｆｔコンテナ１００基分（５００トン）の輸送をトラックから切替。

○ 米流通効率化支援事業

令和７年度補正予算額　200百万円

＜対策のポイント＞

食料安全保障の確保を図るため、流通構造の合理化・効率化、米流通の透明性の確保等に向け、地域流通を支える**精米事業者等が、多様化する実需者ニーズに対応するための流通等の共同化を推進**する取り組みや、**小売事業者等が、生産性向上に取り組む産地との長期契約に基づく直接取引により、消費者への安定的な供給を推進**する取り組みを支援します。

＜事業目標＞

米流通の共同化に取り組む共同事業体、産地と連携した販売に取り組む小売事業者を拡大（47事業体、10事業者［令和12年度まで］）

＜事業の内容＞

１．精米事業者等共同化推進事業　　90百万円

① 精米事業者等共同化調査等事業

多様化する実需者ニーズに対応するため、**精米事業者等が共同事業体を組織し、米流通等の合理化及び効率化に向けた物流等の共同化を推進**するための調査等の取り組みを支援します。

② 精米事業者等共同化支援事業

①の**共同事業体による米流通の合理化及び効率化に向けた物流等の共同化モデルを構築**する取り組みを支援します。

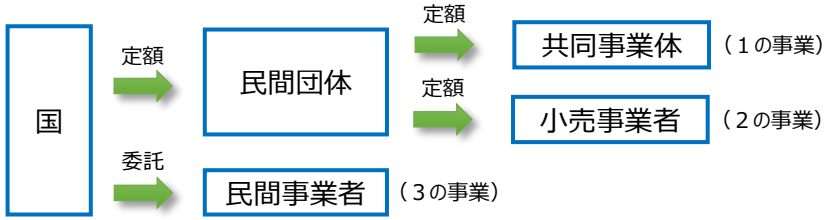
２．小売事業者等・産地連携モデル化推進事業　　100百万円

小売事業者等が、多収品種や直播栽培等、米の生産性向上に取り組む産地と長期契約を締結し、**多様な価格帯の米を消費者に安定供給するための直接取引に繋げるモデルを構築**する取り組みを支援します。

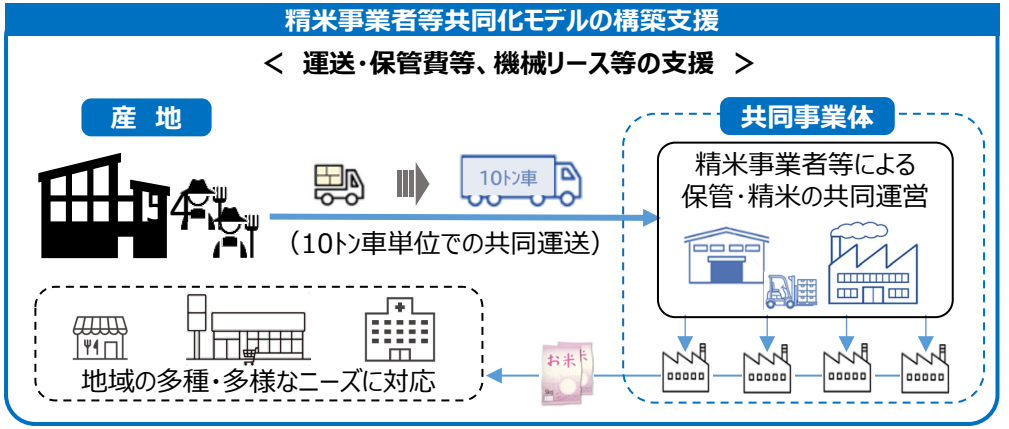
３．米流通調査管理体制等整備　　10百万円

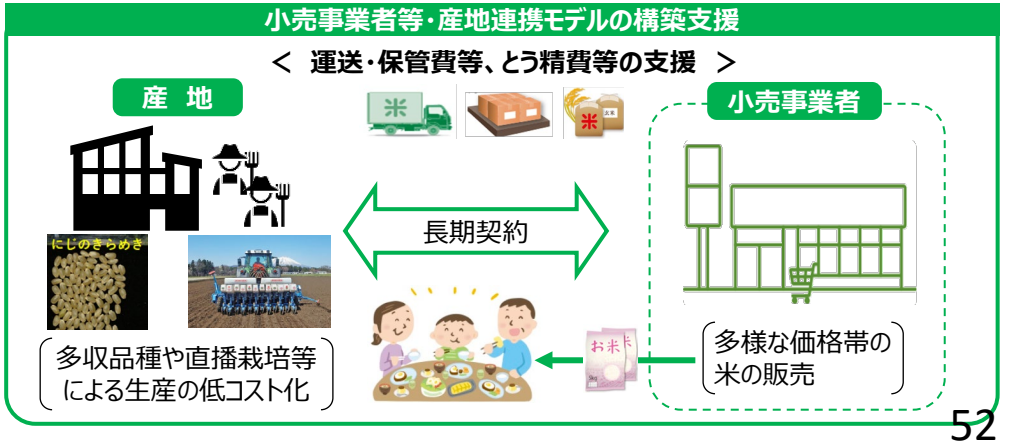
米流通の透明性を確保するためのデータベースを整備します。

＜事業の流れ＞



事業イメージ＞





［お問い合わせ先］　農産局穀物課　（03-6744-2184）

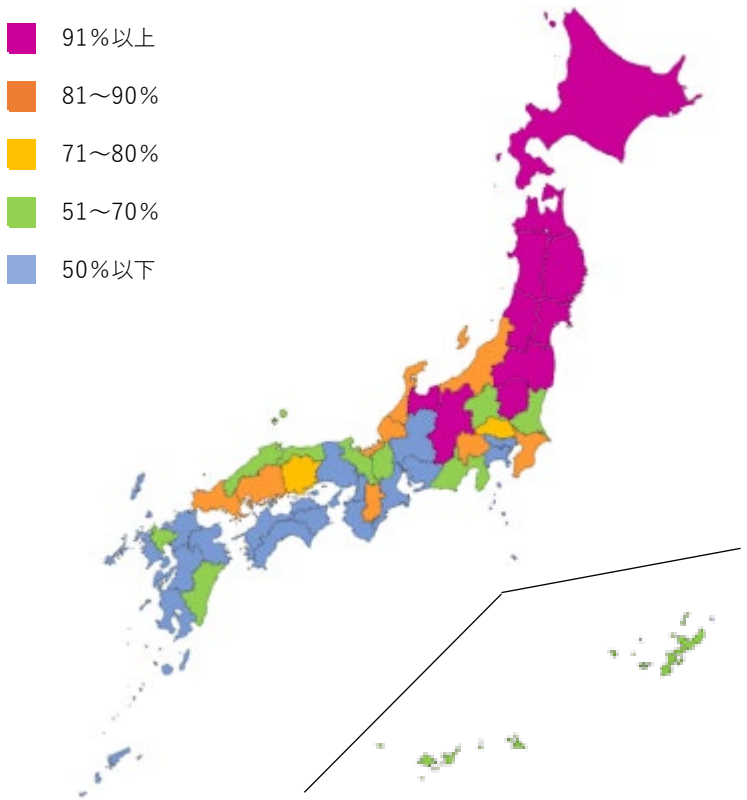
令和８年産水稲うるち玄米の１等比率及び前年産比較（９月30日現在）

○　令和８年産水稲うるち玄米の９月30日現在の検査数量は、188.5万ﾄﾝと前年産同月202.5万ﾄﾝより14.1万ﾄﾝ減少、過去５カ年（令和３～７年産）平均183.4万ﾄﾝより5.1万ﾄﾝ増加となっている。

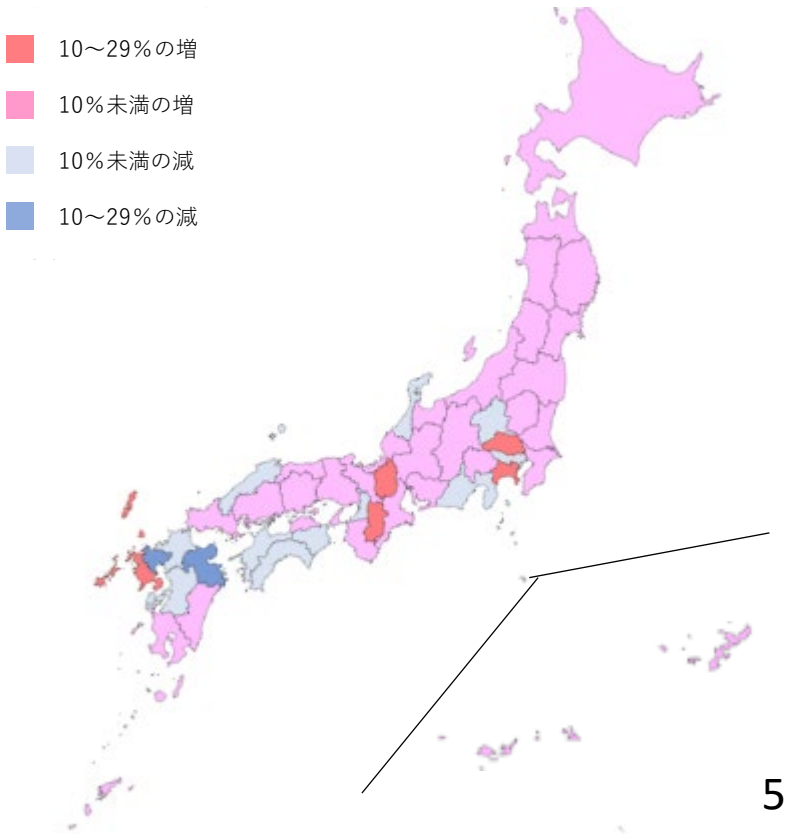
○　水稲うるち玄米の９月30日現在の１等比率は、79.8%（前年同期：　77.0 %）となっている。

○　８年産米の１等比率は昨年と同水準となっており、過去５カ年平均（74.5%）と比較すると平年よりよい傾向となっている。

１等比率（8年産・9月末時点）



１等比率　7年産との比較（9月末時点）



令和８年産水稲うるち玄米　等級別検査数量（令和８年９月30日現在）

（単位：%）

	等級比率				１等比率	
	１等	２等	３等	規格外	前年同期	5カ年平均（R3−R7）
北海道	95.7	2.5	0.4	1.3	91.3	90.0
青森	98.0	1.8	0.1	0.0	92.6	88.1
岩手	98.1	1.8	0.1	0.0	97.6	96.0
宮城	96.4	3.3	0.2	0.1	93.8	91.7
秋田	96.3	3.2	0.3	0.3	94.5	86.8
山形	97.1	2.6	0.2	0.1	95.0	87.2
福島	96.4	3.4	0.1	0.1	92.7	90.3
茨城	65.8	29.2	4.6	0.3	57.1	64.4
栃木	97.2	2.6	0.2	0.0	92.0	92.5
群馬	64.0	32.9	3.0	0.2	67.5	69.2
埼玉	77.0	21.0	1.9	0.2	47.6	44.9
千葉	86.4	12.0	1.4	0.2	84.9	85.9
東京	−	−	−	−	−	−
神奈川	40.2	59.8	−	−	18.6	34.0
山梨	82.9	16.9	0.2	−	79.6	85.3
長野	97.6	2.3	0.1	0.0	95.4	96.6
静岡	68.0	28.3	3.5	0.2	72.9	76.5
新潟	82.9	16.3	0.7	0.1	75.8	65.5
富山	91.7	7.6	0.6	0.1	87.0	83.1
石川	85.6	13.4	0.9	0.0	87.2	85.8
福井	89.7	8.0	1.4	0.8	86.2	88.7
岐阜	44.8	49.8	4.0	1.3	36.9	44.0
愛知	22.7	50.0	26.0	1.3	20.7	25.0
三重	25.0	65.0	9.3	0.7	24.9	34.0

	等級比率				１等比率	
	１等	２等	３等	規格外	前年同期	5カ年平均（R3−R7）
滋賀	59.5	35.1	4.9	0.6	37.0	60.3
京都	69.3	26.6	3.6	0.5	65.4	68.9
大阪	38.2	50.3	11.2	0.2	45.7	36.8
兵庫	31.0	54.7	14.0	0.4	27.5	38.1
奈良	84.9	13.9	1.1	0.1	74.9	79.8
和歌山	15.5	69.6	14.5	0.4	6.5	15.4
鳥取	52.0	43.8	4.1	0.1	45.0	49.6
島根	56.7	34.1	8.5	0.6	58.2	60.2
岡山	74.0	21.2	3.7	1.1	73.7	74.9
広島	81.2	17.2	1.5	0.1	76.2	83.0
山口	84.4	14.8	0.6	0.2	79.6	78.7
徳島	34.8	52.8	10.8	1.6	43.5	42.0
香川	7.9	72.8	18.7	0.6	4.3	6.4
愛媛	26.9	57.6	14.4	1.1	33.8	37.7
高知	14.6	63.3	18.7	3.4	16.7	17.9
福岡	5.0	79.0	14.1	1.9	8.7	10.1
佐賀	63.9	30.6	3.3	2.2	75.1	67.7
長崎	45.3	48.0	4.4	2.3	34.6	42.3
熊本	28.3	43.6	18.5	9.6	29.9	28.5
大分	50.6	45.5	3.6	0.3	63.6	59.0
宮崎	52.4	25.6	14.7	7.2	46.3	56.9
鹿児島	44.4	41.2	10.9	3.5	43.1	38.7
沖縄	52.0	28.9	18.5	0.6	43.7	51.4
全国	**79.8**	**16.8**	**2.7**	**0.6**	**77.0**	**74.5**

注　1）ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。
　　2）「0」は単位に満たないもの、「−」は事実がないものを示している。
　　3）「5カ年平均」は、令和3年産から令和7年産の9月30日現在（速報値）による平均値。